

現代の ことば

やすなり
安成

てつぞう
哲三



中国や韓国による「防空識別圏」拡大のニュースが話題になっている。各国の12カイリの領海権が「防空識別圏」の背景にある。このような人間社会の取り決めやゴタゴタには関係なく、鳥たちは自由に空を飛び、魚たちは自由に海を泳ぎ回っている。

人工衛星画像からみる生の地球には、海陸分布があり、その上に活発な雲の動きがみられるが、もちろん国境などはどこにも見られない。大陸と海洋の境目は大陸棚で縁取られた浅い

沿岸海洋が広がっているが、そこは豊かな海洋生態系があり、水産資源の宝庫でもある。陸上は複雑な地形や気候に育まれた植物生態系があり、様々な動物群の存在を可能にしていた。

人類は、このような海洋と陸上の生態系から多くの恵みを授かりながら、人間社会を形成してきた。生態系からの恵みとは、食糧としての水産資源や森林資源などの直接的な恵みに加え、植物プランクトンや森林による光合成を通じた酸素の供給、森

国境なき地球の自然

林による水循環や栄養循環の維持や水害防止など、多岐にわたっている。このような生態系からの様々な恵みを総称して、最近では生態系サービスという言い方がされている。近年の多くの研究は、海と陸の生態系は独立した生態系として維持されているのではなく、水や物質の循環を通して、密接につながっていることも明らかにしている。

人類は農業・漁業などを含めた生態系サービスの活用を通して、社会を形成し発展させてきたが、一方で19世紀以降、石油・石炭などの鉱物資源をエネルギー源にして進められた「近代化」は、都市開発のための森林の破壊などを通して生態系サービスの劣化を進めてきた。これらの鉱物資源は、地球上

で非常に偏った地域にしか存在しないため、資源の保有、所有、利用を巡って、国家間の競争や戦争が頻発した。20世紀はまさにそのような時代であり、その状態は21世紀に入った現在もなお続いているともいえる。

皮肉なことに、石油・石炭の産出は国や地域が限られているが、それらの燃焼で大気に放出された二酸化炭素は全球大気の濃度を高め温室効果を高めて地球温暖化を促進している。また、現在問題になっているPM2.5などの大気汚染物質も、やはりこれらの鉱物資源の燃焼過程で生成されるが、国境を越えてまたたくまに広域に拡散し、グローバルな大気汚染を引き起こしている。

要な単位となっているが、環境保全については、グローバルにも地域的にも、国を超えた対応が必要であることはもはや明らかである。生態系についても、国ことの生産活動や政策によってバラバラに利用され、生態系サービスの劣化や、場合によっては生態系そのものの消滅を招いてきた。生態系サービスを保証してきた海・陸の生態系は長い地球の歴史の中で形成されてきた世界遺産であり、その保全と持続的利用のためには、人類の共有財産、すなわち、グローバル・コモンズ（地球規模の共有地）であるという意識が重要であろう。私たち人類が依存する地球の自然には国境はないのである。

（総合地球環境学研究所長・地球環境学）